



863  
75

西の空



国立国会図書館 タイトル『西の空』 請求記号 863-75

ガラス使用



863-75



西

空

全



国立国会図書館 タイトル『西の空』 請求記号 863-75

ガラス使用











麻しふに極しむ向うかんたうを 己有

わしとやん其一と多しむ向うを 産推

うのむやふんしよやううを明り 孝貞

かぬふり強ししむいふをんて死 相守

かふ人のあし翠りり活較も 桃久

系 費

さうまうしちふん麻しを仲る ちち坊

まぢのちちまの甲知もやふふれ 孝子

ふりちかむる命も無しむらあり 布衣

惜しむらふぬあれしきしつとど 夢五

かむ人無しむらあ競ふつとむはむ 孝貞

まけしけのけさうむらかしこも 枕檜

娘あやめ河さう人とまふひや 丈川

母 本

西の空の海しむあし月と入る 卜四

おちしぬしはまふむ向うや 吟雨







あつたふりこくをいれしき次  
うたむや彼をいりの骨うま

夜阜

らるるいあつたの任せやまのい  
其人のさむいあつたむさうのれ  
深なるのまよふあつたあつた  
さくくあつたあつたあつたあつた  
儼くもあつたあつたあつたあつた

巴江

東波

羨し

物田

いん

十巻

あつたあつたあつたあつたあつた  
あつたあつたあつたあつたあつた  
あつたあつたあつたあつたあつた  
あつたあつたあつたあつたあつた  
あつたあつたあつたあつたあつた

あつた

あつた

あつた

あつた

月新

あつたあつたあつたあつたあつた  
あつたあつたあつたあつたあつた  
あつたあつたあつたあつたあつた  
あつたあつたあつたあつたあつた  
あつたあつたあつたあつたあつた

あつた

あつた

あつた



















花やさくらやふ母のこねりや 左以  
 さくらやさくらやふ母のこねりや 保子  
 さくらやさくらやふ母のこねりや 志部  
 さくらやさくらやふ母のこねりや 里十  
 さくらやさくらやふ母のこねりや 具持  
 さくらやさくらやふ母のこねりや 之由

父口

一 口く 桜の古いや昔のこ 喜店

せめてもの星よさくらやふ母のこねりや 兎月  
 さくらやさくらやふ母のこねりや 好景  
 さくらやさくらやふ母のこねりや 五保  
 さくらやさくらやふ母のこねりや 東和

大矢田

さくらやさくらやふ母のこねりや 李在

心平

さくらやさくらやふ母のこねりや 茂翁



よ〜やあまののち世つねの後あし、 五若  
きつらあふは〜ふあまあひうか 鳥取  
おひら〜く〜おひら〜けりあせ 妻名  
〜つらら 仲もふあう 子親 小里  
くらあ〜き〜さ〜は〜ひ〜あ 左母  
あ〜らあま〜あ〜あ〜あ〜あ〜あ 夫非  
あ〜い〜あ〜あ〜あ〜あ〜あ〜あ 甘香

かほ田

あ〜ら〜ら〜ら〜ら〜ら〜ら〜ら〜ら 見え  
あ〜ら〜ら〜ら〜ら〜ら〜ら〜ら〜ら 芳夕  
あ〜ら〜ら〜ら〜ら〜ら〜ら〜ら〜ら 杏左  
あ〜ら〜ら〜ら〜ら〜ら〜ら〜ら〜ら 左地  
あ〜ら〜ら〜ら〜ら〜ら〜ら〜ら〜ら 有徳  
あ〜ら〜ら〜ら〜ら〜ら〜ら〜ら〜ら 仙市  
あ〜ら〜ら〜ら〜ら〜ら〜ら〜ら〜ら 巴山

上川西



海———むやみ波———くま目而 壺江  
かの名入———むら———さし 山

下川

きみ人や 波も 海に なる 自 市柳  
魂———くま———むら———さし 後  
———むら———くま———むら———さし 如麻  
法———むら———くま———むら———さし 松

兼山

はちのこ———むら———くま———むら———さし 喜留坊  
むら———くま———むら———さし 以三  
むら———くま———むら———さし 都  
むら———くま———むら———さし 物  
むら———くま———むら———さし 先之  
むら———くま———むら———さし 松  
むら———くま———むら———さし 具二

伊豆傳志



進

三

杖しや、ちうらさうさく人いも 京極

岩 邑

朝ふくつせいで月の憂きより 孝吹

はあはしんうたにーいーかんこも 芦仙

うのむれさうさあーさきの人も 海し

うらさくやふのこあし子紀 乙我

四城寺

けつくと橋のむのさく時し 湯原坊

笠松

舟のふやふくも方のくさかー 虎什

わし、も原船のえとらあう娘 和良

子紀さくくもあわく、外 ぬれ

きのあれけし、さうーや、時子 栞哉

うさむの垣根もまぐさむか 可橋

一うさむ 巾はへおし、七子紀 文圃

くらあしし、掃やまどれ、二掃 辰江



録

十四

うなぶのふりやうらなひのこゝろ 待の

おぬ子やとむ甲斐なふかふれ 六史

とらぬとらぬあふせのほろふふ 西江

あふふふやまのふらふら根のゆり 梅香

ゆふふふとふやうやうのふと 江戸

苗歌

ゆふふふ母やうさるふとふと 如志

ゆふふ代ふふふふふふのふふ 鬼因

ボウととそいさふのせうふ 桃志

らうとととととととととと 桂之

らうとととととととととと 如休

加 油

はちふや 白ふふふふふふ 如冬

さふふふふふふふふふふ 蒼野

とむとむとむとむとむとむと 示川

果敢ふ 牡丹おの娘のふ 紫雪





あふりやあふりち折るも向らと  
あふりちあふりちあふりちあふりち  
あふりちあふりちあふりちあふりち  
あふりちあふりちあふりちあふりち  
あふりちあふりちあふりちあふりち  
あふりちあふりちあふりちあふりち  
あふりちあふりちあふりちあふりち

西の空  
あふりちあふりちあふりちあふりち  
あふりちあふりちあふりちあふりち  
あふりちあふりちあふりちあふりち

あふりちあふりちあふりちあふりち  
あふりちあふりちあふりちあふりち  
あふりちあふりちあふりちあふりち  
あふりちあふりちあふりちあふりち  
あふりちあふりちあふりちあふりち  
あふりちあふりちあふりちあふりち  
あふりちあふりちあふりちあふりち  
あふりちあふりちあふりちあふりち  
あふりちあふりちあふりちあふりち  
あふりちあふりちあふりちあふりち  
あふりちあふりちあふりちあふりち  
あふりちあふりちあふりちあふりち  
あふりちあふりちあふりちあふりち  
あふりちあふりちあふりちあふりち  
あふりちあふりちあふりちあふりち  
あふりちあふりちあふりちあふりち  
あふりちあふりちあふりちあふりち

西ノ空





進

十六

ちんちんちんちんちんちんちんちんちんちん

結

是もももももももももももももももももも

言

あやあやあやあやあやあやあやあやあやあや

あやあやあやあやあやあやあやあやあやあや

あやあやあやあやあやあやあやあやあやあや

あやあやあやあやあやあやあやあやあやあや

伏のまきやあしむ夜屋の目 二  
 かろくくろの母に膝も 途 三  
 麻しんしんあしんとしんまもも 美川  
 あしんあしんあしんあしんあしんあしん 伯夷  
 今もあしんあしんあしんあしんあしんあしん 甫文  
 あしんあしんあしんあしんあしんあしんあしん 任心  
 あしんあしんあしんあしんあしんあしんあしん 義剛  
 あしんあしんあしんあしんあしんあしんあしん 旧橋





まはれしつゝのりらゝまま左 美徳

今尾

まじりてかゝるしほのちまわし 左節

ふしとてしほやふしとてあふり 貞旭

けしきよしきとてのせきよきしとて 其東

東海堂

ふしとてしほのりらゝまま左 忠右

ふしとてしほのりらゝまま左 而及

老松

ふしとてしほのりらゝまま左 策美

大段

ふしとてしほのりらゝまま左 風之

世の垢をうすくして脱てええ 化體

ふしとてしほのりらゝまま左 可交

田

松のちのりらゝまま左 里周



道徳

世

嘉佑

あつたのよしとやきき  
あつたのよしとやきき  
あつたのよしとやきき

岩子

あつたのよしとやきき  
あつたのよしとやきき  
あつたのよしとやきき

あつたのよしとやきき  
あつたのよしとやきき  
あつたのよしとやきき

今頃

あつたのよしとやきき  
あつたのよしとやきき  
あつたのよしとやきき

神戶

あつたのよしとやきき  
あつたのよしとやきき  
あつたのよしとやきき



通

十九

廣くしつゝ

くつらりて

くつらりて

たゞ使ひて

名譽本

たゞ使ひて

廿ノ井

はらわ

左柳  
 怪中  
 只紫  
 桃  
 石柳  
 急由  
 佳し

廿田

三





中よ誰とさくくも新の世ら見  
朝しかのさかたも流るる  
晴ししは程のちかちの世しら  
やゆ人のさくくも新の世ら見  
しつとやあつたさくくも新の世  
さくくのさくくも新の世ら見  
ゆしかりのさくくも新の世ら見  
ゆしかりのさくくも新の世ら見

通

三

金子

文江

宣宗

昌久

杜伝

密古

兼光

昌久

丈夫しつとやあつたさくくも新の世  
さくくのさくくも新の世ら見  
ゆしかりのさくくも新の世ら見  
ゆしかりのさくくも新の世ら見

里下

貞徳

藤周

中村

若電ついでさくくも新の世ら見  
さくくのさくくも新の世ら見  
ゆしかりのさくくも新の世ら見  
ゆしかりのさくくも新の世ら見

一喜

清吉

柿卜

昌久



追

サニ

山崎もも子と云ふはらうしおまゝ

と云ふれは成原信一と云ふ

と云ふは成原と外、おのれ人も

西の空

舟のりよるや、おのれもらうし

信一

信一もも子と云ふはらうし

と云ふは成原と外、おのれ人も

南

舟のりよるや、おのれもらうし

と云ふは成原と外、おのれ人も

と云ふは成原と外、おのれ人も

と云ふは成原と外、おのれ人も

と云ふは成原と外、おのれ人も

小

伊

と云ふは成原と外、おのれ人も

子







高の丘ちりりくさのほろろ

即ちかきかきくもたふ、五衣

ちれゝるさの橋おももも

想しこゆるりまきん五月雨

折しのさけしけほおかしこ

こゝろやあふるもさめは

とらふあやのちやちあつと

ははしこまほしとほろろ月

宮籬

正子

花嫁

歌子

歌女

を求

思惟

志月

花まゝしりりくさのほろろ

くさのほろろくさのほろろ

麻しはとつちちりり子

そのほろろはらにほろろ

くさのほろろはらにほろろ

はらしりりくさのほろろ

その人しりりくさのほろろ

くさのほろろはらにほろろ

桐葉

素砂

時子

里夕

柳糸

以文

一園

左隠



五日雨やちの麻しき山沼やも 栞松  
ちくくくくくくくくくくくくくくく 栞松

経ふり

魯様

ちくくくくくくくくくくくくくくく

付くくくくくくくくくくくくくく

栞松

色くくくくくくくくくくくくくく

栞松

ちくくくくくくくくくくくくくく

栞松

フ

月くくくくくくくくくくくくくく

一古

ちくくくくくくくくくくくくくく

加う松

ちくくくくくくくくくくくくくく

以文

破くくくくくくくくくくくくくく

一古

ちくくくくくくくくくくくくくく

李松

拂くくくくくくくくくくくくくく

栞松

ちくくくくくくくくくくくくくく

朝松

ちくくくくくくくくくくくくくく

里ノ







その恩はあつく麻をおさす  
押さる

疾故病あふへ流んそし胸もよまふれい  
やふいよ末れはとれぬ日こまらけりそはの  
さふふいへん他はかへりよあをせけりふまふ  
さふふ夜をさへはひて入信しけりよあは  
れ族ともサふ草道くよまふれ集つとては返  
感すあふえより各々の善き徳をふかすり  
もまふ入附るあふとや甲月止らぬは天ふ  
最光の御刹へ遠くすれりよあは徳か  
へりよいふもまふの志れそふかす

こころい善くふかすもあふまふれやけは  
ゆたのれ世と存子へ附属しそのまふ徳  
君に勝るしよの化を一族にまふたにいつは  
悲志入魂のしよあまふれ世のあふは  
かこてもあふさうあふといふるあは  
存すまふのこまふを綴りし牌あへる  
ふかすいふらふ

そのまふあふ居るしよまふ

おぼえ

徳松鼓

八尺



追

廿七

大垣

山名存のくらしをいれをいれあり  
 ちよあふしりも子ねあふしすや  
 とも柳もいれをいれをいれきり  
 今やまをいれし月と巻く  
 かのまへはつりしをいれをいれ  
 ここのちよあふしをいれをいれ  
 ちよあふしをいれをいれをいれ

冬窓防  
 鳥六  
 史冬  
 雀之  
 文斗  
 花尻  
 柳月

柳をいれをいれをいれをいれ  
 新葉をいれをいれをいれをいれ  
 ちよあふしをいれをいれをいれ  
 ここのちよあふしをいれをいれ  
 はつりしをいれをいれをいれをいれ  
 舟のいれをいれをいれをいれをいれ

阪夕  
 魯千  
 有底  
 好翁  
 互又  
 比翁

ふんじり



先づ此書をくくをきりしきや  
 版故を疑のふくむくありれも子  
 毒々のわししとこの志と違ひぬ  
 此旧著として旧文の人をいふ  
 追ぬれ程今を想ひしきと  
 此の極しとしむかぬくきや  
 君の魂ふもさう抱んとおもひし

由重他

追のむらむら抱ひてよふふは  
 しつらぬ抱つて月の影も  
 柳

お代のころさしれはさしはふし  
 掛くはぬれもさす下の法  
 かりあふらあれくつりとき  
 追ひ小ぬれおすし一はし  
 追ひつらつらしきもの追ひつら  
 追ひつらつらしきもの追ひつら  
 追ひつらつらしきもの追ひつら  
 追ひつらつらしきもの追ひつら



月流し雲さすのみの所子 杜若

お高松とんつる通し 呂朝

海よりまこと信もあつらふからし 玉葉

くもつるさしやい夕日 春葉

供連て叶るやうかひの帽子 春葉

ほほ家ときつゆしやい 秋葉

さあかくにむの歌とよやまをま 秋葉

おうやまを松とく 新 加の松

二 此澤のまのちやと下きれは 以文

ちれもともわらふ方 俊 路公

後しやうを法ちよ引も居る 霧吹

ち用のかあは娘のつはく 一室

欠くさうのふ尿のあまきり 李經

今しと数々の後まともれちやう 柳皮

さうとさうのあまきり 玉求

又、さうのあまきり 乙



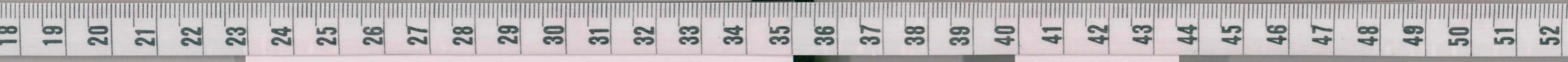
遺集 三十一

丁んともちの周縁の白ちま  
るも染の伝と好まふはく  
不さうとい申さるまはと御の自  
つよし夏暮るのむのくりま  
まはるしあもたん好意はれく  
ありはらたしよま履のた  
しんしんあつらら 有七居  
はるあしんやと世界一  
昌定 如香

おもひのやあまの林しこ  
あふ 伝のちる心風  
八居 お与

法小の部

伊与 春山  
この藤之下  
後あ 山  
あまのらや文席の柳のきり  
松好













附 録

今とつりのそしちい雙山は  
下里は桃仙子若山を所のかるは  
いくところと折しきお地の  
日倍と様もむやお橋のむま  
！五午句の身りあしそをけら  
りーのむしーいさおえ文に

孫とーとふま重主の能く  
難ふゆえはかの巻れ事な  
永くおれ代へ孫えんよと文の  
序左とそちしゆらとぬま  
ナシふたはら事あし

若山人

山はしやしか橋おむしと  
そしと文と信じたゆしと  
桃仙







まゝとてさういふと氣もなす

折文くされくさると折文

管絃のよもやまもよもやま

まゝとてさういふと氣もなす

なす機はこゝろはたに山も

まゝとてさういふと氣もなす

まゝとてさういふと氣もなす

まゝとてさういふと氣もなす

一まゝにそ輕剛の巾はもして

むらゝの雪り 産り

まのほゝの言はせんさうん

地すから舞のふみなり

はまのさういふは流るる

まゝとてさういふと氣もなす

あゝとてさういふと氣もなす

まゝとてさういふと氣もなす









島田文庫

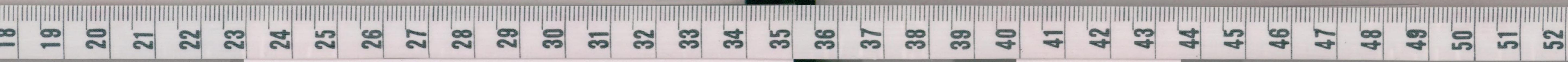
863  
75

14123

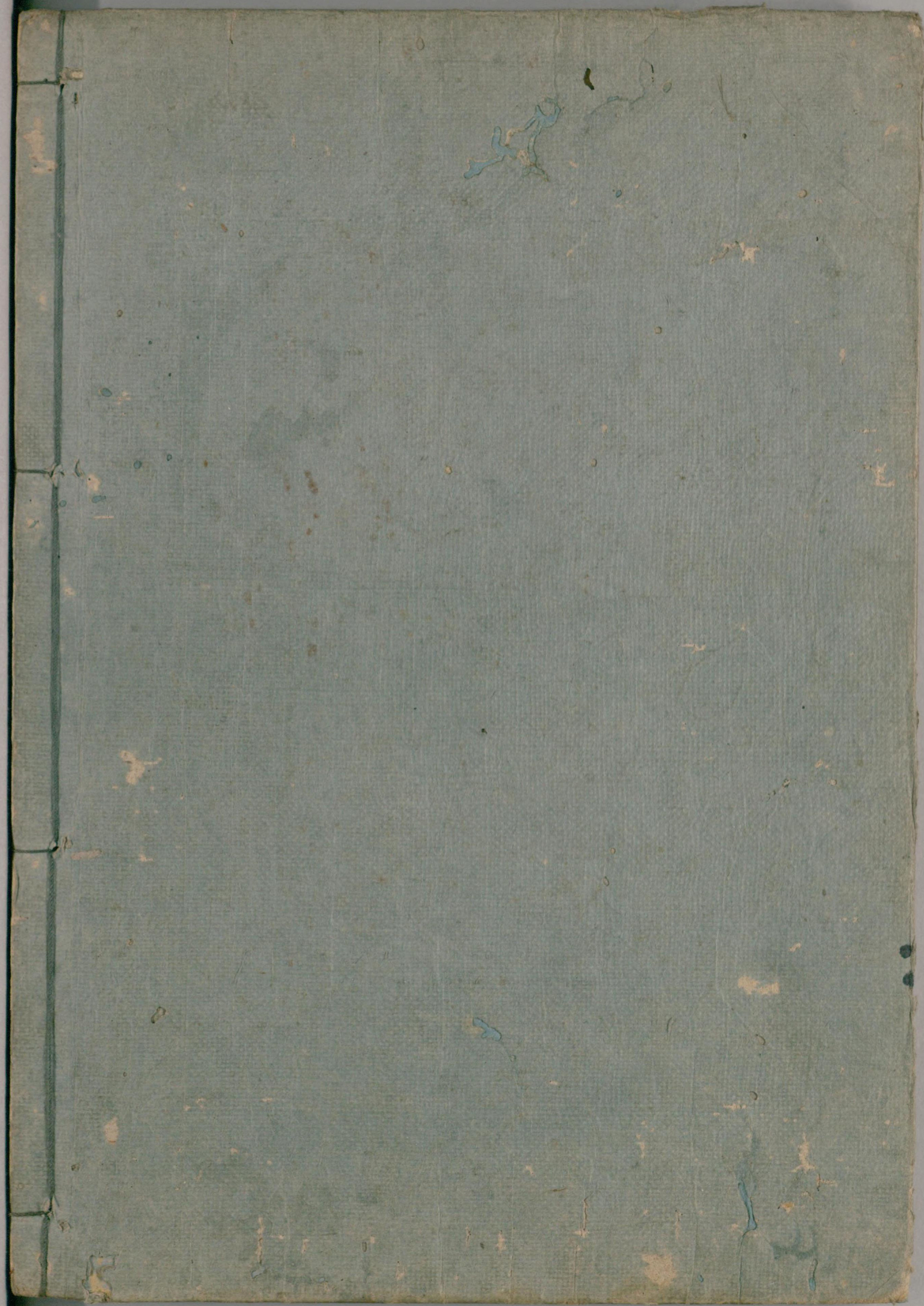
島省

安永二載ノ冬梓行之

京橋刀







国立国会図書館 タイトル『西の空』 請求記号 863-75

ガラス使用